

第4次総合計画基本計画見直し案「財政運営の基本方針」

1 目標「継続して安定的な財政運営を行うための備えを確保」の進捗管理のための指標

現行	見直し案
<p>(2)目標 ②継続して安定的な財政運営を行うための備えを確保します。 経済状況の変化による収入の減少、災害の発生に伴う支出の増加などに対応し、継続して安定的な財政運営ができるよう、財政調整基金(年度間の財源の不均衡を調整するための基金)の確保に努めます。</p> <p>◆財政調整基金の残高 100億円を確保</p>	<p>(2)目標 ②継続して安定的な財政運営を行うための備えを確保します。 経済状況の変化による収入の減少、災害や感染症の発生等の不測の事態に伴う支出の増加などに対応し、継続して安定的な財政運営ができるよう、財政調整基金(年度間の財源の不均衡を調整するための基金)の確保に努めます。</p> <p>◆財政調整基金残高の標準財政規模に対する割合 20%を確保</p>

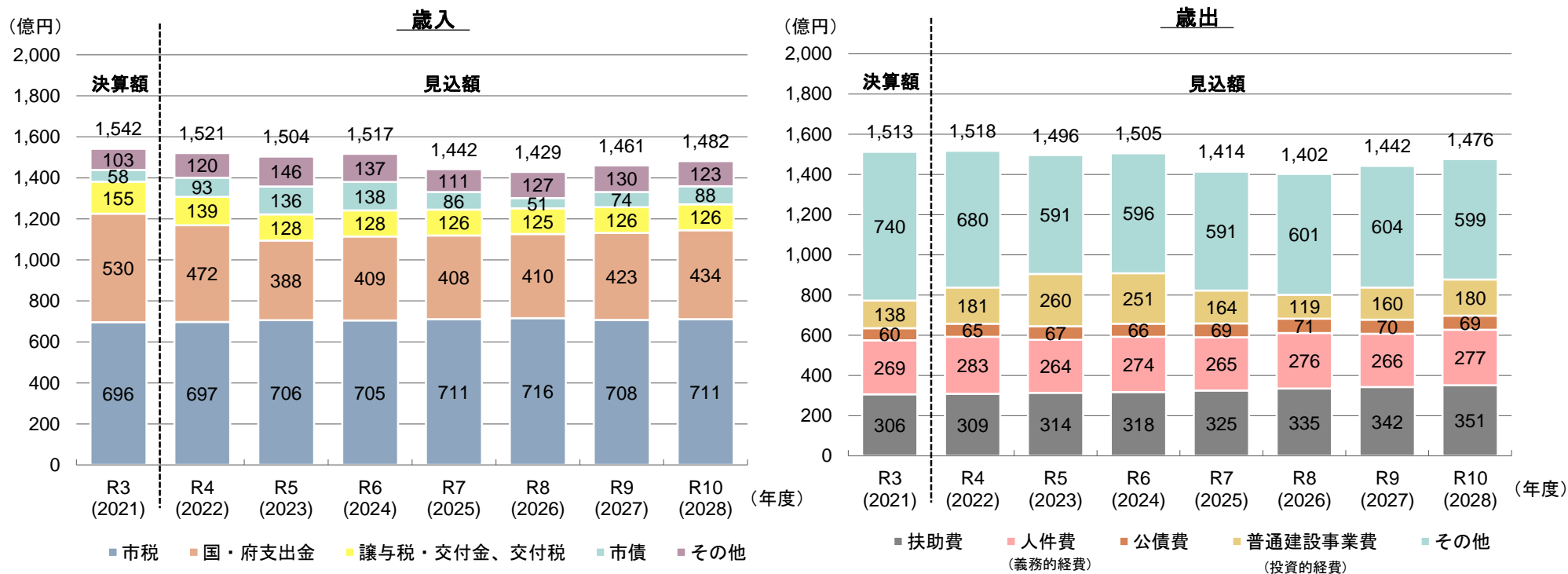
【見直し理由】

- ・財政調整基金については、財政規模に応じた適切な残高の確保が必要であるため、第4次総合計画策定後における本市の財政規模の変動状況を踏まえ、金額は固定せず、標準財政規模に対する割合とする。
- ・平成28年度以降における財政調整基金の残高の状況は100億円から130億円程度、標準財政規模に対する割合は15%から18%程度で推移しているが、平成30年度の災害対応や、令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症等への対応において、臨時的な財政需要に柔軟に対応するための財源として財政調整基金の重要性が高まっている状況を踏まえ、「標準財政規模に対する割合 20%を確保」と設定する。
- ・従来の指標を上回る水準となるが、その達成に努めることにより、社会・経済情勢の見通しが困難な中で、より安定的な財政運営を図る。

2 令和4年度以降の収支見通し

中核市移行など、第4次総合計画策定後に生じた財政的影響を加味し試算

(新型コロナウイルス感染症による将来的な影響を予測するのは困難であるため、試算では加味していない)



	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
差引額 (歳入合計－歳出合計)	29	3	8	12	28	27	19	6	
補てん額 財政調整基金の繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時財政対策債発行額	0	0	0	0	0	0	0	0	
補てん後の差引額	29	3	8	12	28	27	19	6	(億円)